

青果 神戸 神果

業務加工キャベツ契約栽培

J A兵庫六甲と連携、産地復興へ

神戸市中央卸売市場本場の青果卸・神果神戸

青果（廣瀬正行社長）では、J A兵庫六甲と連携し、業務加工用キャベツの契約栽培に取組んでいる。神果は同J Aを通して生産者を募集。

今年度は農業専門法人・ジェイエイファーム六甲をはじめ18者が参画し、合計16・7畝を作付け。今年度の出荷量は前年度比150%増の900トを計画している。この取組みにより、産地復興も期待されている。

神戸市のキャベツ作付面積は、1985年の約300畝から2012年には約100畝へと減少し、同J Aでは産地復興のモデルとして、未利用の農地を利用したキャベツを模索していた。一方、



ジェイエイファーム六甲では未利用農地を活用してキャベツを栽培する

ベツ契約栽培がスタートした。

神戸市内の岩岡、平野、押部谷などの地域で8月下旬～9月中旬にかけて定植し、11月下旬～3月にかけて出荷。昨年度は16者が栽培し、355トを出荷した。

作付面積の大半を占めるのが、同J Aが100%出資して13年に設立したジェイエイファーム六甲だ。同社では、農作業支援やモデルとなる農業経営、担い手育成などに取組む。キャベツの機械

化一貫体系の確立に向けて、うね立て機や移植機、収穫機などを導入。未利用農地を活用した10畝の圃場での栽培に加え、他の契約生産者の作業支援も行つことで、契約栽培に取組む生産者全体の作業の効率化、さらには産地復興を図る。

一方神果では、同J Aを通じて生産者を募集。募集にあたっては、栽培品種、出荷規格、荷姿などの条件を示したうえで、農家所得の試算も提示する。収穫したキャベ



神戸市中央市場本場に入荷したキャベツ。神果では経費削減に向け鉄コンなどでの出荷を推奨

ツは同J Aが取りまとめ、市場や実需者に出荷する。

神果では、「鉄コンテナ出荷などにより経費を抑えることができる。収量を上げれば利益を確保

でき、安定収入が見込める」と生産者に参画を呼びかけている。販売先は県内外のカットメーカーや外食業者だが、「今後はおもつと積極的に県外にも販売していきたい」と考えた。

また、神果の職員も部署に関係なく圃場で研修を行い、産地理解につなげている。さらに、キャベツの後作としてスイトコーンの取組みも行っている。